

人口推計結果（20211028 現在）

<人口総数>

・第五次総合計画の将来人口推計によると、本市の人口はR2の58,738人をピークに減少に転じ、R27には50,370人になると見込まれています。（図1）

・今回の推計により、町丁目別の人口総数の分布をみると、金剛駅から狭山駅まで鉄道沿線の一部で増加が見られる一方、市南部のニュータウンで減少傾向が見られます。（図2）

<0～14歳人口>

・今回の推計により、町丁目別の0～14歳の分布をみると、市南部のニュータウンで減少傾向がみられます。（図3）

<通学区域別、7～15歳人口>

・狭山中学校区では、各校とも増加傾向がみられ、東小、北小はR7、狭山中はR12をピークにその後は減少に転じる見込みです。（図4）

・南中学校区では、南第一小と南第二小は横ばいから減少傾向、南第三小は横ばいとなっており、南中学校は増加傾向がみられるもののR2をピークにその後は減少に転じる見込みです。（図5）

・第三中学校区では、各校とも減少傾向にあり、R27にはH27の2/3程度となる見込みです。（図6）

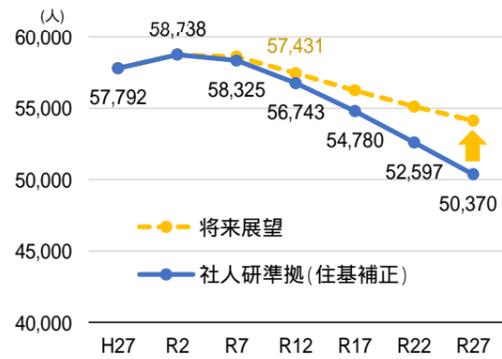


図1 人口総数の推移と見通し（第5次総計）

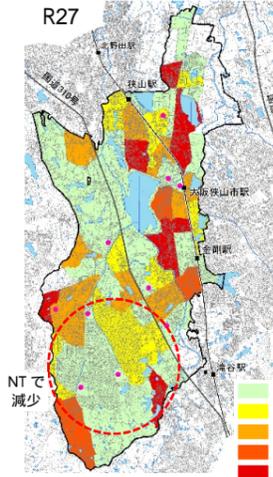
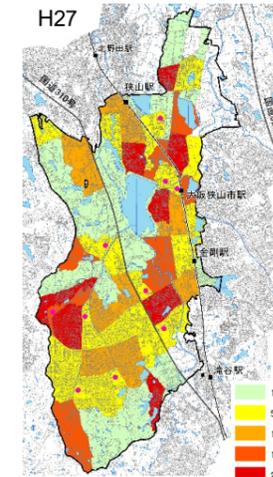
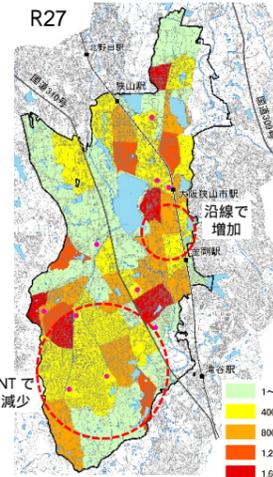
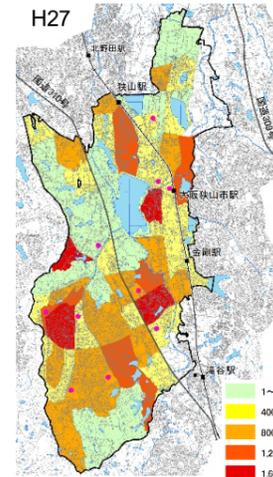


図2 町丁目別、人口総数の推移（H27 R27）

図3 町丁目別、0～14歳人口の推移（H27 R27）

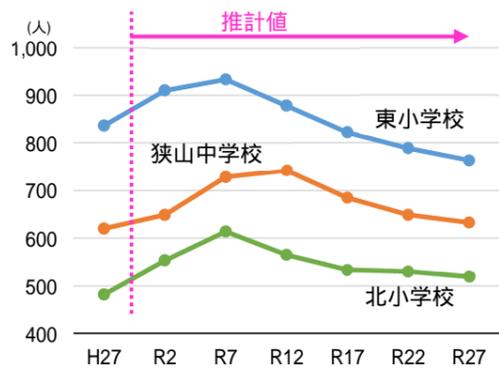


図4 7～15歳人口の推移（狭山中学校区）

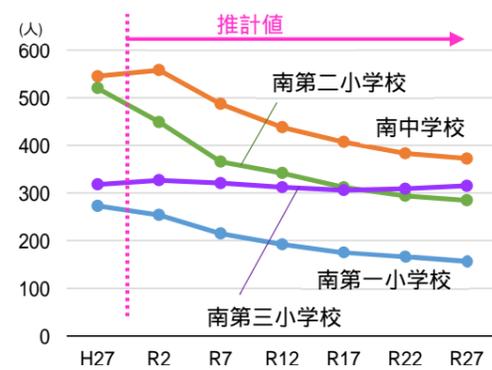


図5 7～15歳人口の推移（南中学校区）

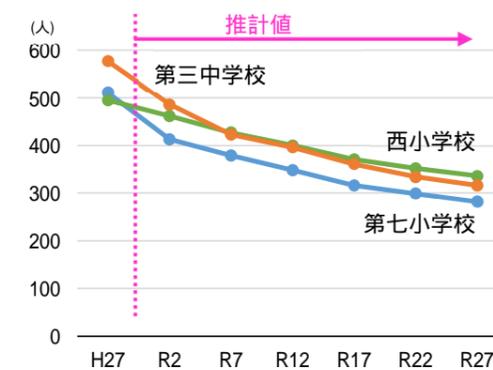


図6 7～15歳人口の推移（第三中学校区）

推計方法

- ・第五次総合計画と同様にコーホート要因法で推計（基準人口はH27国勢調査。推計に必要な仮定値のうち、生残率、純移動率、0～4歳性比は第5次総合計画の仮定値を採用、こども女性比のみ町丁目（小地域）ごとに新たに設定）。
- ・5歳階級人口に対する1歳階級人口の割合は直近3年間の住民基本台帳人口の平均値を採用、複数校区にまたがる町丁目は適宜1/2で按分、第5次総合計画に基づく将来展望は考慮しないこととした。
- ・本資料では私学の選択割合は考慮していない。

狭山中学校区の学級数の見込み

・東小はR7に30学級、北小もR7に19学級、狭山中はR12に21学級まで増加するもの、最大学級数が必要な期間は数年間の見込み。（図7～9）



図7 東小学校の必要学級数



図8 北小学校の必要学級数

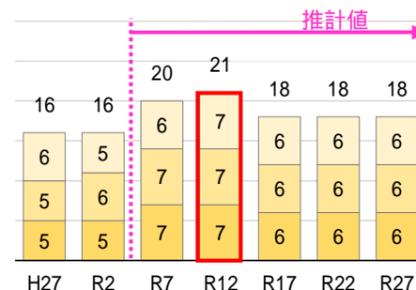


図9 狭山中学校の必要学級数

南中学校区の学級数の見込み

・南第一小では、R7に学級数が増えるものの、R12以降は全学年で1学級に減少、南第二小、南第三小では、R7以降各学年2学級が続く見込み。（図10～12）

・南中はおおむね横ばいの見込み。（図13）

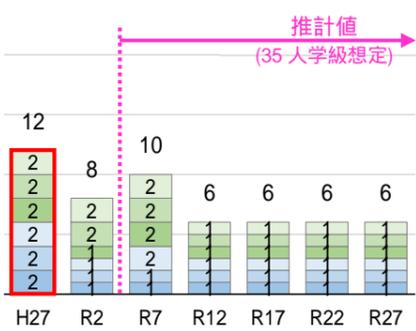


図10 南第一小学校の必要学級数

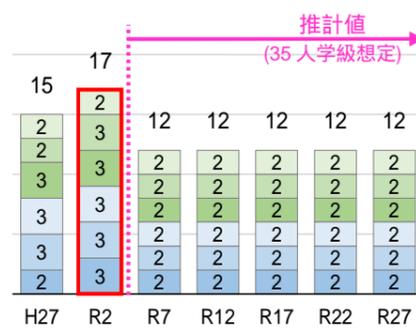


図11 南第二小学校の必要学級数



図13 南中学校の必要学級数

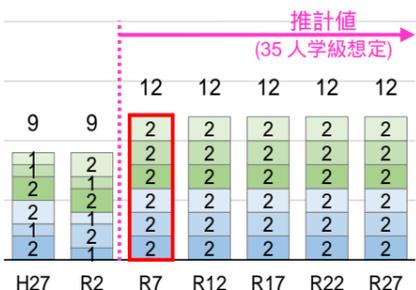


図12 南第三小学校の必要学級数

第三中学校区の学級数の見込み

・西小はR7以降も2学級の見込み、第七小学校はR7に17学級まで増加するもの、最大学級数が必要な期間は数年間の見込み。（図14、15）

・第三中は減少傾向が続き、R22以降は各学年3学級となる見込み。（図16）

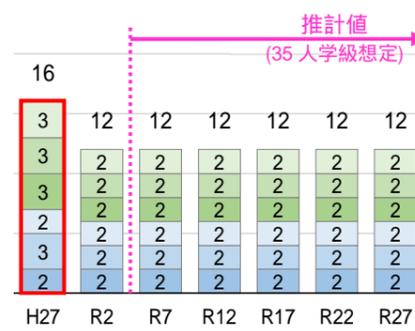


図14 西小学校の必要学級数

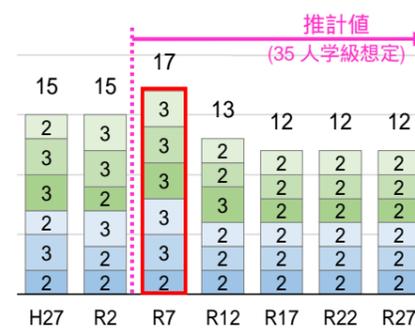


図15 第七小学校の必要学級数

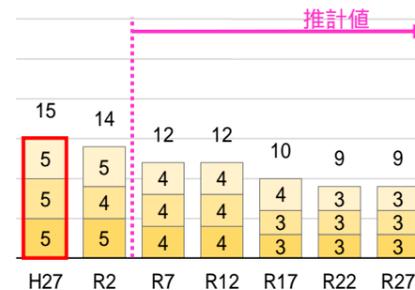


図16 第三中学校の必要学級数

凡例（共通）

6年(12歳)	H27、R2は実績値 【40人学級】
5年(11歳)	
4年(10歳)	R7以降は推計値
3年(9歳)	
2年(8歳)	
1年(7歳)	3年(15歳)
	2年(14歳)
	1年(13歳)
小学校	中学校

